

2017年度 小委員会活動成果報告

(2018年2月6日作成)

小委員会名	鋼構造座屈小委員会	主 査 名：木村祥裕 就任年月：2017年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：井戸田秀樹
設 置 期 間	2017年4月 ～ 2021年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>実際の鋼構造物における部材や骨組の座屈による不安定現象を解明し、より高精度な座屈設計法を構築するための資料をとりまとめる。</p> <p>初年度：『鋼構造座屈設計指針』の講習会を実施すると共に内容の再レビューを行い、『鋼構造の座屈に関する諸問題』次期改訂に反映すべきテーマの絞り込みを行う。</p> <p>2年度：各テーマを再検討し、委員会内外での意見交換を行いながら修正、充実させる。</p> <p>3年度：とりまとめた内容を大会PDで公表し、内外の意見を問うとともに、改訂原稿の執筆を行う。</p> <p>4年度：改訂原稿の査読、修正を実施し、出版に結びつける。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：木村祥裕(東北大学) 幹事：金尾伊織(京都工芸繊維大学) 委員：竹内 徹(東京工業大学)、井戸田秀樹(名古屋工業大学)、小崎 均(日建ハウジングシステム)、五十嵐規矩夫(東京工業大学)、津田恵吾(北九州市立大学)、田川 浩(広島大学)、藤本益美(大阪市立大学)、倉田真宏(京都大学)、松井良太(東京工業大学)、宇佐美徹(竹中工務店)	
設置WG (WG名：目的)	座屈崩壊型鋼構造部材の性能評価WG： 下記の骨組における部材の座屈評価式の提案と現象の解明を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・制振構面における梁の局部座屈に対するダンパーからの作用軸力の影響 ・梁の横座屈に対する柱・梁接合部による端部拘束効果と横座屈長さ ・梁の局部座屈に対する柱梁接合部の応力伝達機構と局部座屈耐力及び塑性変形能力評価 	
2017年度予算	350,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会HPアドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s39/

項 目	自己評価
委員会開催数	4回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『鋼構造座屈設計指針』
講習会	1. 「鋼構造座屈設計指針」改定講習会 参加者数：東京231名・大阪135名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 「鋼構造座屈設計指針」改定講習会を東京と大阪で開催し、当初の活動計画を満足する成果が得られた。 2. 実構造物における部材の座屈現象を精査し、細心の座屈研究において検討すべきテーマの絞り込みを行っており、当初の活動計画に沿った成果を得られた。
委員会活動の問題点・課題	1. 小委員会メンバーでは、最新の座屈現象の調査研究に時間を有すること、また若手研究者の活用の観点からWGを設置しているが、旅費の関係もあり、活動が十分とは言えないことから、今後、活動の効率性を高める工夫をしていく。